

令和 4 年度行政評価

政策 1 誰もがいつでも成長し続け、輝けるまち

(令和 3 年度 事業実施分)

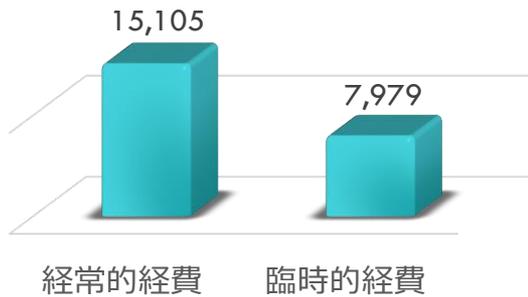
政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち（教育・文化）

施策01 生涯学習の充実

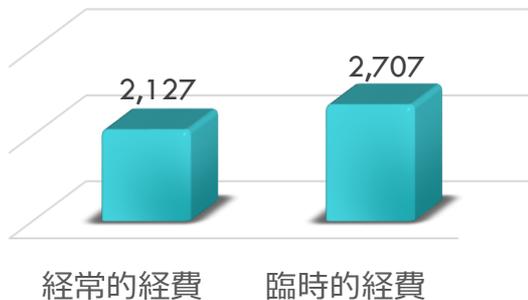
施策の方向性・目標（総合計画より）

幅広い世代の市民が、さまざまな分野での知識や技術を習得し、学んだことを発揮することができる生涯学習のための環境が整っています。地域の教育力の向上により、市民一人ひとりが、学ぶ楽しさ、喜び、充実感の中で成長し、生きがいを感じながら生き生きと暮らせるまちを目指します。

経費の内訳（万円）



特定財源の活用（万円）



※特別会計は除く

現状と解決すべき課題

【「学び」の環境づくり】

- ・地域全体で生涯学習を推進していくため、地域、家庭、学校、NPO等が連携した地域の教育力の向上が求められています。
- ・家庭教育に関する学習機会を設け、子育て家庭を地域全体で支援するとともに、青少年を取り巻く環境変化を踏まえながら、関係機関と連携して健全育成への取組を行うことが必要です。

【魅力ある図書館づくり】

- ・現在の図書館は小規模であり、図書及びICT関連資料の展示、閲覧、保管などのスペースが限られ、駐車場も十分でないことから、施設の整備が必要です。
- ・市民が気軽に利用し、世代を通じて図書に親しむことができるよう、利便性やサービスの向上が求められています。

【公民館活動の充実】

- ・趣味に関する講座に比べ、学びを中心とした講座が少ない傾向です。身近な学びの場として多様なニーズに応え、市民の自己実現を促進する公民館事業を展開することが必要です。
- ・若年層から高齢者まで幅広い世代の方に参加いただけるよう、公民館事業についてより多くの方への周知が必要です。

成果指標（達成したい目標）

小中学生に関わる地域の支援者数（人）



成果指標の分析

新型コロナウイルス感染症対策のため支援の場が失われたことによりコロナ禍前より減少がみられる。今後は適切な対策を継続するとともに、活動の場の創出に努め、目標達成を目指す。

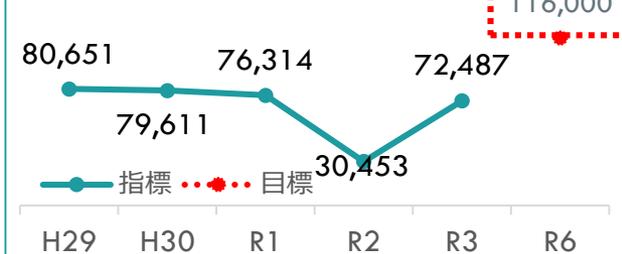
市民一人あたり図書貸出冊数（冊）



成果指標の分析

新型コロナウイルス感染症の流行により、来館者数の減少及び貸出冊数の減少が続いている。開館時には感染症対策を十分に行うほか、感染防止対策による臨時休館の際にも貸出と返却については対応を継続した。

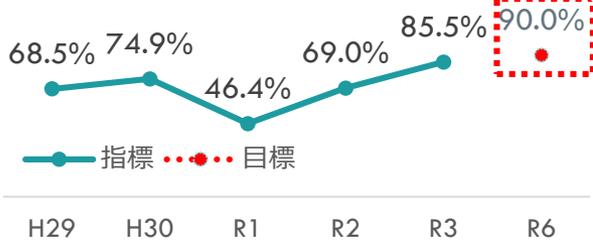
公民館利用者数（件）



成果指標の分析

新型コロナウイルス感染症対策による臨時休館日があったものの、前年中止にした秋の文化祭の開催により、利用者数は従前の水準に戻りつつある。ただし、感染症対策を継続する「ウィズ・コロナ」の中での利用促進となるため当初目標の達成は容易ではない。

公民館講座募集定員の充足率



成果指標の分析（任意指標）

各年度で実績値の変動はあるものの、引き続き、地域の社会教育の拠点として、幅広い年代やニーズに応えられる講座を企画を行っていく。

指標の説明

- 【小中学生に関わる地域の支援者数】「地域学校協働本部」及び「まなび塾+」支援者の年間延べ人数
- 【市民一人あたり図書貸出冊数】貸出冊数÷人口
- 【公民館利用者数】市内全公立公民館(16館)の年間の総利用者数
- 【公民館講座募集定員の充足率】応募者数÷定員

課題に対する主な取組

課 題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行（万円）	アウトプット （どのくらいの事業や取組を行ったか）	アウトカム （どれだけの成果が得られたか）
「学び」の環境づくり	地域学校協働本部事業	地域と学校の連携・協働活動	239万円	市内9本部11学校で実施	支援者数（のべ）4941人
「学び」の環境づくり	備前まなび塾+土曜日・長期休業講座	公民館を活用した学習支援	208万円	市内10公民館で20回程度ずつ実施	登録者数（率）253名（16.7%）
魅力ある図書館づくり	図書館運営事業（図書館）	読書推進に関する講座などを行う	1万円	2講座	募集定員の充足率59%
公民館活動の充実	公民館講座事業（中央公民館）	地域で学ぶ講座、親子で体験する講座などを行う	11万円	2講座	募集定員の充足率77%
公民館活動の充実	公民館講座事業（日生地域公民館）	市民のニーズに応える講座を行う	3万円	1講座	募集定員の充足率70%
公民館活動の充実	公民館講座事業（吉永地域公民館）	幅広い世代の方に参加できる講座を行う	1万円	1講座	募集定員の充足率53%

施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 （課題解決状況）	地域学校協働本部、まなび塾等に関わる地域の支援者が活動しやすい環境条件を整える。さらには、NPO団体との連携をスムーズに行えるようなシステムを構築する。公民館活動はコロナ対策を浸透させ、安全な利用による参加者増と「まなびのメニュー」さらなる紹介をめざす。新図書館建設については「新しい図書館を創ろう会」を立ち上げ、市民みんなで作る「まちじゅうどこでも図書館構想」を実践していく。
	社会教育課長 横谷 重樹 公民館活動課長 波多野 靖成	【翌年度の取組目標】	今後、地域学校協働本部事業と学校運営協議会（コミュニティースクール）を一体的に推進することで、相乗効果を発揮し学校運営の改善と地域づくりが同時に進んでいくことを期待する。公民館は幅広い年代の参加が見込まれる集いの場を広報発信し、少ない年代の利用者増を図る。新図書館は設計が完了したら建設に取り組む。

二次評価者	役職	社会教育部長	生涯学習の充実は、市民が自由に選べるメニューをいかに提供していくかにかかっていると思います。地域学校協働やまなび塾はマンネリ化することなく、市民が新たに取り組んでみたいメニューを広めましょう。図書館はこれからの生涯学習の中心になるものを市民の皆さんと創っていきましょう。
	氏名	波多野 靖成	

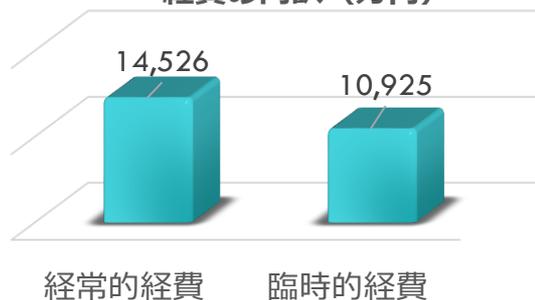
政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち（教育・文化）

施策02 就学前の教育、保育等の充実

施策の方向性・目標（総合計画より）

認定こども園（以下、「こども園」という。）、保育園、民間の小規模保育園、認可外保育施設の環境が整い、家庭保育と就園児の両方が等しく幼児教育を受けられるまちを目指します。また、支援を必要とする就園児には地域の子育て機関などと連絡を密にし、こども園・保育園・小学校の積極的な連携により、子どもの発達や学びの接続ができていくまちを目指します。

経費の内訳（万円）



特定財源の活用（万円）



※特別会計は除く

現状と解決すべき課題

【待機児童の解消】

・保育料の無償化により、0～2歳児の入園希望者が増加した結果、待機児童が発生し入園したい園に入れない家庭があるため、待機児童解消へ向けた対策が必要です。

【保育士・保育教諭の人材確保】

・0～2歳児における保育料の無償化により保育需要が増大しているため、受入れに対応できる保育士・保育教諭の確保が必要です。

【支援が必要な園児への対応】

・支援が必要な子どもが増えており、保育士配置基準以上の保育士を配置する必要があるため、保育士・保育教諭の人材確保が必要です。

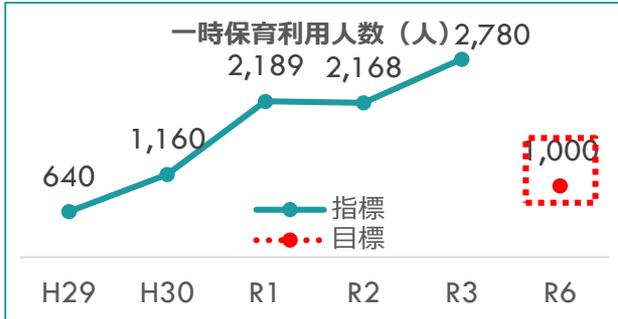
【保護者等からの相談対応】

・保護者等からの相談対応については、保育士・保育教諭が複数名、長時間の対応を求められるケースも多いため、保育士・保育教諭のサポートが必要です。

【こども園・保育園と小学校との連携】

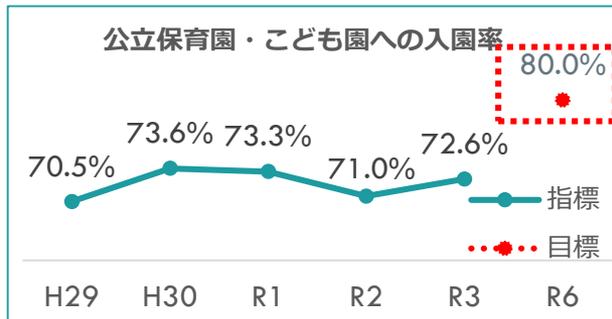
・こども園・保育園の5歳児から小学校1年生へ、互いの交流を促進し、子どもたちの成長や学びの状況について円滑な引き継ぎが必要です。

成果指標（達成したい目標）



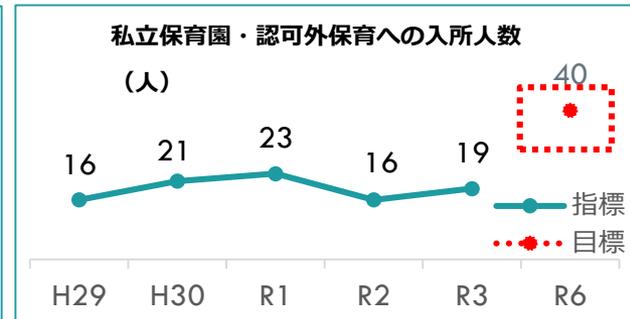
成果指標の分析

保護者の就労形態の多様化、緊急的・一時的に保育を必要とする児童が増加している状況となっている。



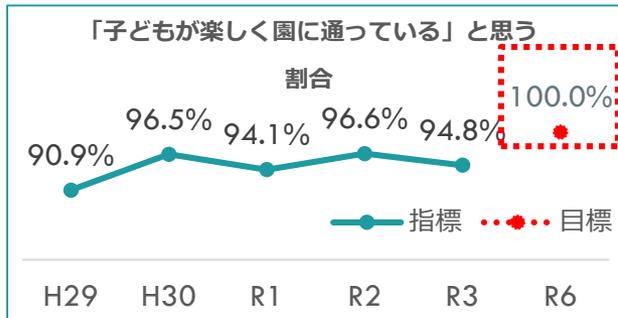
成果指標の分析

保育料の無償化等の影響により入園率は増加傾向となっているが、受入れ体制を整えて一層の増加を目指す。



成果指標の分析

令和4年4月に本格運営となっている小規模保育所の整備などにより入所者数の達成を見込んでいる。



成果指標の分析

保護者アンケートによる満足度は概ね高い水準で推移しており、保育の質向上などにより目標数値を目指す。

指標の説明

- 【一時保育利用人数】伊部・日生・吉永認定こども園の年間一時保育利用人数の合計
- 【公立保育園・こども園への入園率】全入園児数÷0～6歳未満の人数
- 【「子どもが楽しく園に通っている」と思う割合】保護者アンケートにより回答のあった割合

課題に対する主な取組

課題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行（万円）	アウトプット （どのくらいの事業や取組を行ったか）	アウトカム （どれだけの成果が得られたか）
待機児童の解消	小規模保育所整備事業	NPO法人が整備する小規模保育所整備に対して補助する。	6,776万円	NPO法人への施設整備補助金	待機児童数の減少 （R3対比：6人減）
待機児童の解消	認可外保育施設等利用助成金	認可外保育施設等に入所する児童の保護者に対して保育料を助成する。	708万円	認可外施設の利用助成金 （対象児童 28人）	同上
保育士・保育教諭の人材確保	保育ICT化推進事業	保育士の業務改善により保育の質向上のため園のICT化を進める。	1,909万円	園のネットワーク構築、保育業務支援システムの導入	令和4年度に運用開始 （登降園管理、保護者連絡等）
支援が必要な園児への対応	職員研修委託事業	支援が必要な園児の把握、適切な支援に向けた研修を行う。	45万円	職員研修の実施回数 （市内保育園・こども園 30回）	支援対象児童 64人
こども園・保育園と小学校との連携	接続カリキュラムの推進	接続カリキュラムによる取組みを進めるとともに内容を検証する。	-	こども園・保育園と小学校との交流促進及び情報共有	就学前から小学校への円滑な接続

施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 （課題解決状況）	待機児童の解消に資するため、民間による小規模保育所の運営が開始されるとともに、認可外保育所等利用に対する保育料助成も継続的に交付している。また、保育ICT化事業による保育士の業務改善や人材確保、支援が必要な園児に関する研修、小学校との連携等を進めている。
	幼児教育課長 竹林 幸作	【翌年度の取組目標】	子育て支援の充実を図るため、保育料無償化などによる市民満足度は高いものの、0歳児から2歳児で待機児童が発生している状況である。こうした保育需要への対応と質の高い保育を提供するため、保育教諭等の人材確保や研修による人材育成、さらには業務負担の軽減に向けた取組を進めていきたい。

二次評価者	役職	教育振興部長	上記取組の結果、各課題解消に向け一部に成果は得ているが、課題解消には至らずとも、即時に成果を求め難く経年での成果分析を検討する課題もあり、今後も各取組は複合的かつ継続的に進めていくことが重要である。また、多様な保育需要への対応と幼小連携をさらに充実していくため、現状の保育制度（補助及び助成制度を含む）の点検、改善及び実行の積み重ねが急務である。さらには、継続的な職場環境の整備と処遇改善の検討を含めた人材確保や、研修をより充実させ人材育成に取り組むことで、質の高い保育を安定して提供していくことが重要である。
	氏名	石原 史章	

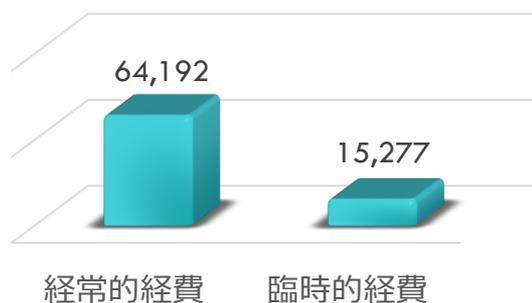
政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち（教育・文化）

施策03 学校教育の充実

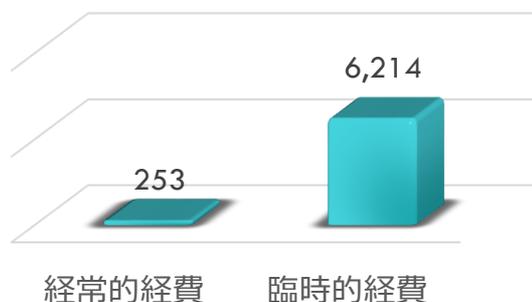
施策の方向性・目標（総合計画より）

子どもたちが、主体的に学ぶことができる環境を整備し、学びに出会う機会を充実させることにより、備前市で学んだことに誇りを持ち、これからの時代を生き抜く力を獲得できる教育が行われ、「生きる力」「創造する勇気」「郷土を愛する心」を育むことができるまちを目指します。

経費の内訳（万円）



特定財源の活用（万円）



※特別会計は除く

現状と解決すべき課題

【ICT環境を活用した教育の充実】

・教職員のICT機器活用スキルの向上やICT機器活用による授業改善に向けた取組が必要です。

【ALTを活用した外国語教育環境の充実と周知】

・ALT全校配置後の学力調査結果には外国語教育環境充実の効果が表れています。しかしながら、保護者や地域の方々とのALT活用イメージの共有が十分とは言えません。家庭・地域・学校が一体となり、外国語教育環境をより効果的に活用するためには、情報発信の充実及びフィードバックを踏まえた活用方法の一層の充実が必要です。

【学校図書館司書全校配置による教育環境の充実と周知】

・学校図書館司書が全校配置され、効果的な活用がなされています。しかしながら、保護者や地域の方々との学校図書館司書の活用イメージの共有が十分とは言えません。家庭・地域・学校が一体となり、学校図書館をより効果的に活用するためには、情報発信の充実及びフィードバックを踏まえた活用方法の一層の充実が必要です。

【片上高等学校の魅力化推進及び周知】

・継続的に片上高等学校の教育活動の特色や魅力の強化と周知が必要です。

【学校の再編整備の検討】

・少子化が進んでおり、学校規模が小規模化している中、効果的な学校運営や教育機会の均等の観点から学校規模の適正化と地域における学校の重要性とのバランスが必要です。

【学校等教育施設の老朽化対策】

・昭和40～60年代に集中的に施設が整備されているため、老朽化が進み、将来一斉に更新時期を迎えるため、計画的な改修や更新対応が求められています。また、バリアフリー化等の施設の整備も必要です。

成果指標（達成したい目標）

ICT活用スキル達成度 ・ ICT環境満足度 (%)



H29 H30 R1 R2 R3 R6

成果指標の分析

教員のICT活用スキル達成度については86%であった。児童生徒のICT環境満足度に係る調査は令和4年度から実施予定。

外国語教育環境満足度 (%)



H29 H30 R1 R2 R3 R6

成果指標の分析

教員の外国語教育環境満足度については95%であった。児童生徒の外国語環境満足度に係る調査は令和4年度から実施予定。

貸出冊数・学校図書満足度 (%)



H29 H30 R1 R2 R3 R6

成果指標の分析

児童生徒の学校図書満足度に係る調査は令和4年度から実施予定。

希望進路意識・進路決定率 (%)



H29 H30 R1 R2 R3 R6

成果指標の分析

片上高等学校におけるキャリア教育の充実が推進されている。年度によって数値は変わってくるものの概ね目標値並みとなっている。

指標の説明

【ICT活用スキル達成度・ICT環境満足度】 ICT活用スキル達成度(教員)とICT環境満足度(児童生徒)の平均値 (備前市学習環境に関する調査より)

【外国語教育環境満足度】 複数調査項目の平均値 (備前市学習環境に関する調査より)

【貸出冊数・学校図書満足度】 貸出冊数の達成率と学校図書満足度平均値 (備前市学習環境に関する調査より)

【希望進路意識・進路決定率】 希望する進路が決定している生徒の割合 (進路意識調査・進路決定調査より)

課題に対する主な取組

課題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行（万円）	アウトプット （どのくらいの事業や取組を行ったか）	アウトカム （どれだけの成果が得られたか）
ICT環境を活用した教育の充実	家庭学習のための通信機器整備支援事業	ネット環境がない家庭へモバイルルーターを配置する。	61万円	小中学校用にモバイルルーターを50台購入した。	各家庭でオンライン学習ができる環境が整った。
ALTを活用した外国語教育環境の充実と周知	ALT配置事業	ALTを1校1名配置する。	8,422万円	ALTの学校配置率 100%	岡山県学力・学習状況調査で、基礎・活用ともに県平均値を上回っている。 （基礎56.4、活用49.7）
学校図書館司書全校配置による教育環境の充実と周知	学校図書館運営事業	学校図書館の充実及び児童の読書活動の推進を図る。	4,500万円	小中学校全校に図書館司書を配置した。	1人あたりの貸出冊数は良好である。
片上高等学校の魅力化推進及び周知	感染症対策等の学校教育活動継続支援事業	新型コロナウイルス感染症対策を目的とした物品購入	1,810万円	無線LAN機器やタブレットサーマルカメラ等備品と消耗品を購入した。	校内感染予防対策を実施した。オンライン学習ができる環境が整った。
学校の再編整備の検討	事業実施なし	事業実施なし	-	実績なし	実績なし
学校等教育施設の老朽化対策	老朽化した施設の改修事業	屋上防水の改修及び屋外トイレの改築	2,500万円	吉永小学校の屋上防水改修 吉永中学校の屋外トイレの改築 上記の工事を完了	老朽化した施設を改修することで、安全な学習環境を整えた。

施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 （課題解決状況）	ICT機器活用による授業改善を推進している。 コロナ禍においても年度当初からALTを配置でき、外国語教育の充実を図っている。 教員と学校図書館司書とが連携し、子どもの読書活動や図書資料の活用を推進している。 片上高等学校においては、卒業後を見越したキャリア教育に取り組んでいる。
	小中一貫教育課長 谷口 健一 教育総務課長 竹林 伊久磨	【翌年度の取組目標】	備前市ICT運営支援センターの活用により、教員の授業におけるICT活用スキルの向上を図り、授業改善を進める。 ALT活用に係る好事例の情報を収集し、より効果的な活用方法の在り方を検討する。 学校図書館司書の活躍の場の多様化を進める。 片上高等学校におけるキャリア教育の充実に係る取組の支援の在り方を検討する。

二次評価者	役職	教育振興部長	上記取組の結果、各課題解消に向け一定の成果を得ている。なお、ICT機器活用による授業改善への取組など、課題の多くは単年での成果のみならず、児童生徒の経年での効果分析と併せて検証していくことが重要である。また、ALT及び学校図書館司書の全校配置のメリットを生かした授業の推進については、効果的に活躍の場をより一層多様化させるなど、系統的取組の中で検証し、改善を積み重ね、授業効果を高めていく取組が重要である。
	氏名	石原 史章	

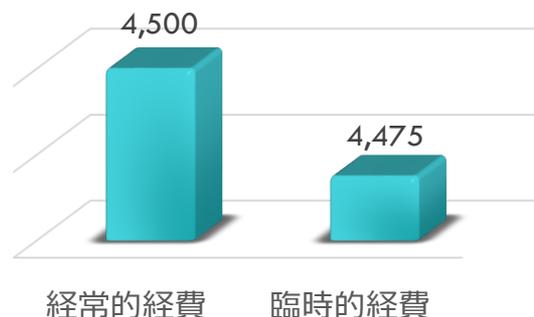
政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち（教育・文化）

施策04 歴史文化の活用と伝統文化の継承

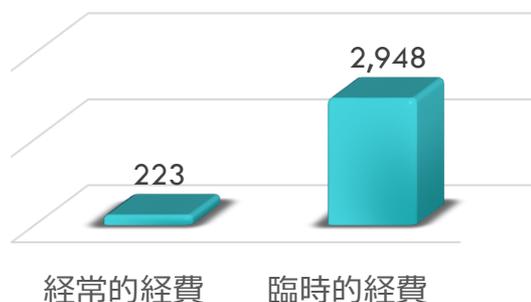
施策の方向性・目標（総合計画より）

本市の歴史・文化を守り、未来に伝えるための保存と活用を進める中、市民一人ひとりが地域の歴史や文化を学び、そこに住むことに誇りや喜びを感じられるまち、新たな文化的魅力の創出と情報発信による交流が生まれるまちを目指します。
また、誰もが身近なところで、いつでも、気軽に芸術文化に触れることができるまちを目指します。

経費の内訳（万円）



特定財源の活用（万円）



※特別会計は除く

現状と解決すべき課題

【歴史・文化に関する調査・整備】

・歴史・文化に関する調査ができていないものや、調査がされていても活用のための環境整備等ができていないため認識されていないものがあり、市民へ周知できるよう調査や整備が必要です。

【歴史・文化に関わる人材確保】

・歴史・文化や芸術活動を重要であるとする市民が少なく、特に若者の関心が低い状態です。
・地域の歴史・文化等に係る人材を地域ぐるみで確保していくことが必要です。

【歴史・文化の市民理解やPR活動】

・歴史や文化を学び、地域の成り立ちを理解した上で、守り伝え、活かしながら、その活動を知る機会を設けるとともに、文化遺産の魅力を発信することが必要です。
・ゆとりと潤いのある実感できる心豊かな社会を実現するため、芸術文化に気軽に触れる機会を提供することが必要です。

【複数ある文化施設の整理】

・文化施設は、老朽化等により大規模改修や耐震化等が必要な施設が多い状況です。また、類似施設もあり、機能の集約化などについても検討することが必要です。

成果指標（達成したい目標）

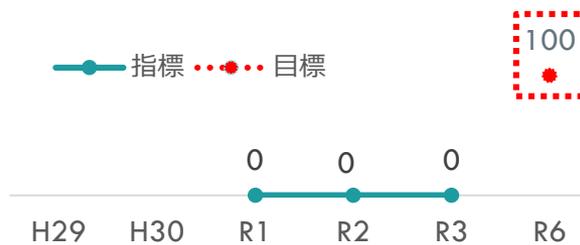
市内文化財の新規指定等の候補件数（累計）（件）



成果指標の分析

市内文化財の全体的な調査を実施予定。今年度は仏画の全体的な調査を実施しながら、新規指定候補を検討し、目標達成を目指す。

論語かるた大会の参加者数（人）



成果指標の分析

コロナ禍により止む無く中止。R4年度の初開催を期待し、コロナ収束後の早い時期に、目標人数の達成を目指す。

出前授業等の市内教育関連事業で行った内容の理解度



成果指標の分析

市ゆかりの偉人マンガ、絵本を制作したものの、R3年度は学校教育での活用、出前授業までは至らず。学校教育での活用はR4年度実施。論語かるたについては、大会中止も、緑陽高校国語科での論語かるた体験、みらい学での研究発表並びにボランティアガイド協会とも大会へ向けての審判講習会等が実施できた。

文化施設開催の講座・ワークショップ参加者数（人）



成果指標の分析

コロナ過による参加者の減少はあったが、少し回復している。今後SNS等により若者層への情報発信を行い、目標達成を目指す。

文化関連で発信したYouTube動画再生回数（累計）（回）



成果指標の分析

コロナ過により、動画での展示解説が増え、閲覧数ものびてきた。今後も動画の数を増やし、twitter等と連携することで再生回数の増加を目指す。

芸術文化に接する機会があった市民の割合



成果指標の分析

コロナ禍により大幅な減少が続く。コロナの早期収束、ウィズコロナでのイベント、催しの再開を願いながら、新規事業も打ちつつ、コロナ収束後早期の目標達成を目指す。

課題に対する主な取組

課 題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行（万円）	アウトプット (どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム (どれだけの成果が得られたか)
歴史・文化に関する調査・整備	潮だまり石垣及び付帯構造物測量業務委託	井田遺跡の潮だまり石垣及び付帯構造物の三次元測量	572万円	三次元点群データと測量図の作成に取り組んだ。	三次元測量を実施したことにより、遺跡の構造等がより詳細になり、保存方法や築造年代を検討するための基礎的データを得る事ができた。
歴史・文化に関する調査・整備	備前陶器窯跡（医王山窯跡）公有化用地測量登記業務委託	備前陶器窯跡公有化用地測量登記業務	115万円	窯跡を公有化取得のための測量、それに伴う移転登記に取り組んだ。	窯跡を公有化したことにより、土地の売買等による開発の危険がなくなり、整備活用が容易になる。
歴史・文化に関する調査・整備	市内遺跡調査	中世備前焼窯と総合調査・井田跡の確認調査	423万円	熊山山塊南面に展開する遺跡群の総合的把握報告書の作成・井田跡の水路・堤構築方法（基礎）の確認	今後、熊山の窯跡の整備活用の基礎資料となる報告書を作成した。井田跡の文化財的価値を判断するための基礎的データを得る事ができた。
歴史・文化に関わる人材確保	旧閑谷学校世界遺産登録推進事業（論語かるた）	論語かるた大会の実施	11.3万円	論語かるた大会実施率0%（コロナ中止） 論語かるた大会参加申込数49人	【学校・地域協力者】 緑陽高校2年論語かるた体験者数 約140人 ボランティアガイド協会論語かるた大会審判員講習会 約10人
歴史・文化に関わる人材確保	旧閑谷学校世界遺産登録推進事業	熊沢番山顕彰マンガ・絵本制作	379.3万円	熊沢番山顕彰マンガ2,550冊・絵本500冊製本	【マンガ】配布冊数2,490冊（R3年度末） 【絵本】同426冊
歴史・文化の市民理解やPR活動	芸術文化活動推進事業	こども備前焼作品展、文学賞の実施	87.8万円	こども備前焼作品展応募者数 908人 文学賞応募者数 544人	【こども備前焼作品展】例年並みの応募者数を確保できた。 【文学賞】開始してから、文学賞が認知されてきており、相当数の応募者を確保することができた。
歴史・文化の市民理解やPR活動	地域の特色ある埋蔵文化財活用事業	ワークショップ「鏡・とんぼ玉をつくろう」を開催・「井田跡」に関連する企画展を開催	99.7万円	トンボ玉をつくろう4回（1日2回×2日） 鏡工人4回（1日2回×2日） 石棺をつくろう2回（1日2回） 文化施設3館で「井田展」を開催	ワークショップ参加者76人 井田展来場者 3館765人
複数ある文化施設の整理	文化施設の今後の方針検討	文化施設の集約化	—	備前焼ミュージアムの動向を見ながら各文化施設の方向性を検討	個別施設計画の文化施設の統廃合検討（案）で検討中

施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 (課題解決状況)	地域の文化財については、令和2年度から進めている井田調査事業はじめ、文化財保存活用地域計画に基づき、計画的な保存・活用・整備を行っていく。旧閑谷学校については、4市での世界遺産登録に向けた活動及び熊沢番山のマンガや創作絵本を活用し、魅力発信・情報発信を行っていく。文化施設については、コロナ過の対応策としてYouTubeによる動画配信を行っている。また施設の集約化も検討していく。文化芸術活動については、文学賞などの従前の事業及び新規事業を開催することにより芸術活動の振興を図っていく。
	教育文化振興課長 畑下 昌代	【翌年度の取組目標】	今後も文化財については、文化財保存活用計画に基づいた事業を実施し、計画的な保存・活用。整備を行っていく。旧閑谷学校については、世界遺産登録に向けた4市での活動と日本遺産「旧閑谷学校」「備前焼」「北前船」について文化観光課、備前焼振興課と連携し関連史跡の魅力発信を行っていく。文化施設について企画展等の充実を図るとともに、施設の集約化も進めていく。文化芸術活動については、新規事業も含め、費用対効果等の分析を行いながら状況に応じた方法・形態を検討していく。

二次評価者	役職	社会教育部長	文化財は「活用あって」輝くものとの認識です。一部の所有者やマニアのものでは保護政策の理解が得られません。これから学校現場や地域社会に認知され、文化財保護から一歩進み、「地域で文化財を愛護」する機運を高めていくといいと思います。まずは小学生あたりから啓発しましょう。
	氏名	波多野 靖成	

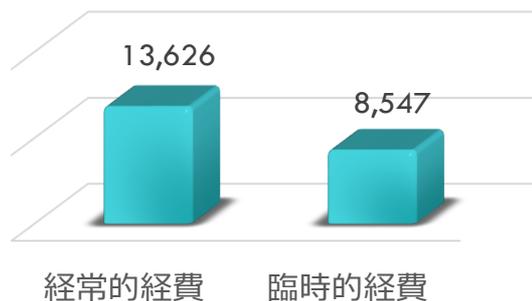
政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち（教育・文化）

施策05 スポーツ・レクリエーション活動の推進

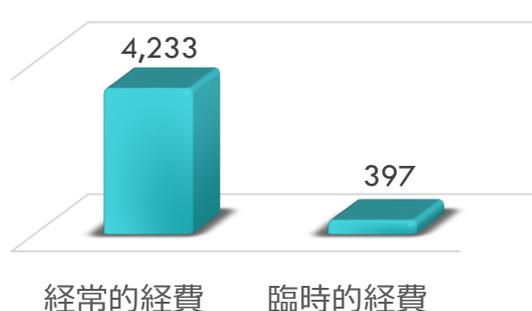
施策の方向性・目標（総合計画より）

すべての人々が「する」「みる」「ささえる」といったさまざまな形でスポーツに参画することで、一人ひとりが生きがいや元気を持って生活するとともに、スポーツを通じて地域資源を有効に活用した施策を展開することにより、活力あるまちを目指します。

経費の内訳（万円）



特定財源の活用（万円）



※特別会計は除く

現状と解決すべき課題

【スポーツ施設の整備】

- ・スポーツ施設の情報発信や利便性向上などにより、施設の利用促進を図るとともに、設備の充実やバリアフリー化など、誰もが気持ちよく利用できる環境整備が必要です。
- ・点在する施設及び老朽化する施設については、公共施設個別計画に基づき施設の存続や除却を判断し、利用者ニーズと財政負担を踏まえた施設整備も求められます。

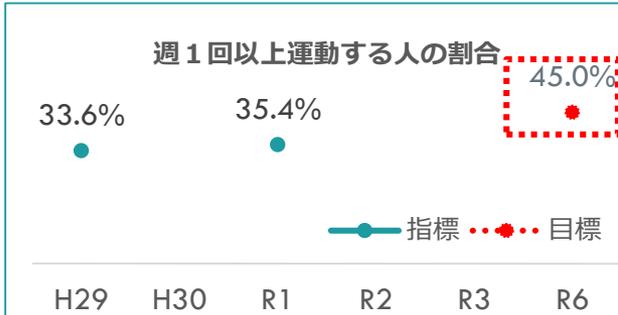
【生涯スポーツの充実】

- ・スポーツを定期的に行っている市民の割合（スポーツ実施率）が減少傾向にあり、それぞれの年齢、嗜好・目的などに応じてスポーツに親しむことができる環境が求められています。
- ・20歳代から50歳代までの年代は、労働や子育てにより1週間のうち1日も運動しない人の割合が60%を超えている状況であり、スポーツに触れる機会の創出やきっかけづくりが必要です。

【スポーツによる地域活性化】

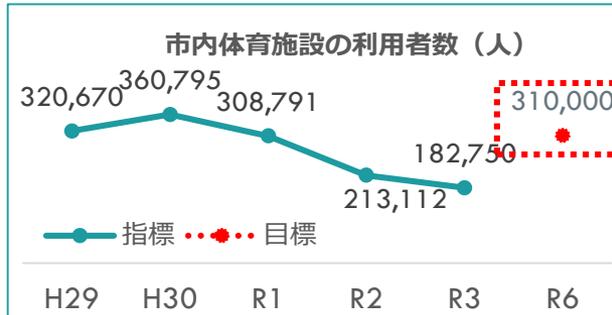
- ・県内外から参加できるイベントの開催やスポーツ環境の整備など、スポーツを通じたまちの活性化に向けた取組が必要です。
- ・備前市の持つスポーツ資源と「観光」「文化」などの地域資源を活用した新たな価値の創出が求められています。

成果指標（達成したい目標）



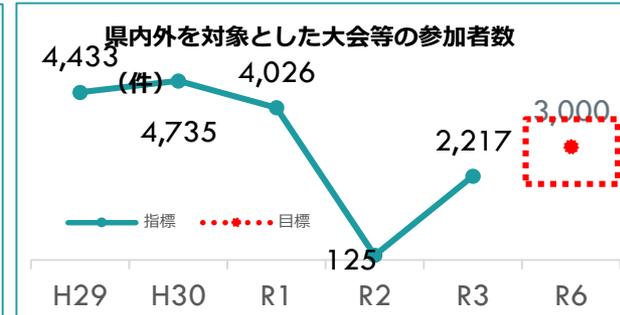
成果指標の分析

目標値に対する75%という結果になったが、スポーツに触れる機会の創出やきっかけづくりを推し進めていく。



成果指標の分析

R2,R3については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大幅減少となったが、ウイズコロナも視野に受入態勢等を整備する。



成果指標の分析

R2,R3については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大幅減少となったが、ウイズコロナも視野に受入態勢等を整備する。

指標の説明

【週1回以上運動する人の割合】 市民意識調査により回答のあった割合

【市内体育施設の利用者数】 久々井、日生、吉永運動公園の年間利用者数の合計

課題に対する主な取組

課 題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行（万円）	アウトプット （どのくらいの事業や取組を行ったか）	アウトカム （どれだけの成果が得られたか）
スポーツ施設の整備	利用者のニーズに対応した施設環境の整備	体育施設の改修・修繕	20,610万円	体育施設の改修・修繕 改修費等前年度比：+24.8%	経年使用による改修・修繕費の増加
生涯スポーツの充実	年代を問わずスポーツに触れる場と機会の充実	各種スポーツ教室や出前スポーツ教室への参加促進	586万円	スポーツフェスティバルやそれ以外の各種スポーツ教室等の開催 参加者前年度比：+1,770%	コロナ禍にあっても、工夫を凝らし、実施可能な大会の実施

施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 （課題解決状況）	市民の日常生活にスポーツが一層取り入れられよう、スポーツフェスティバルや各種スポーツイベント等などを通じて、スポーツの楽しみ、醍醐味を見出してもらえよう工夫をするとともにスポーツ実施率の向上に努める。
	社会教育課長 横谷 重樹	【翌年度の取組目標】	コロナ禍ではあるが、スポーツ大会や各種スポーツイベントを開催し、スポーツを始めるきっかけづくりとなる機会や場所を継続的に提供していく。また、スポーツ施設の劣化状況を把握し長寿命化を図る。

二次評価者	役職	社会教育部長	「体を動かす」ことは本来楽しいこと。未就学児や小学校低学年は鬼ごっこや家のなかでいつも走っているのに、いつの間にかゆっくり歩きだし体を動かさなくなる。10分から15分でできることを小学校高学年から広めたほうがいいとも思います。また、トップアスリートを招致し、本物に触れる機会も必要かと思います。
	氏名	波多野 靖成	